

## 平成 24 年度 第 2 回 理 事 会 議 事 録

日 時：平成 24 年 8 月 4 日（土）15 時

会 場：ポールスター札幌 しやくなげ

出席者：近藤会長、杉本・花田・嶋倉・高橋副会長  
紺屋・渋谷・阿部・大江・須田・黒田・酒出  
櫻庭・大村・春間常任理事、川村監事  
山田・大原・西谷（清）・高橋・関原・小田島  
田中・山内・大沼・中川・奈良・後藤・武田  
前田・大橋・島崎・山口理事

●北海道バレーボール協会副理事長故櫻田義人氏のご冥福を祈り出席者全員で黙とうをささげる。

### 1 開 会

※理事定数 46 名中、出席 32 名、委任状 6 名で理事会は成立することを報告する。

### 2 会長あいさつ

当協会副理事長の櫻田義人さんが 6 月 24 日に亡くなられた。先生は 55 歳と若く、これからの北海道や全日本の中心として、卓越した技術と指導力を発揮してご活躍いただくことを期待していたところであり、とても残念でなりません。ここに改めて哀悼の意を表する次第です。

一方、ロンドンオリンピックが始まった。メダルをめざし持てる力を最後まで発揮し、頑張っしてほしい。また、先週は、全日本実業団男子 9 人制大会が釧路市で開催されたが、成功裏に終わられた釧路協会の皆さまに厚くお礼を申し上げます。今後は、10 月に小樽市でヴィンテージ 8' s 交流大会が開催されるなど全国大会や全道大会が各地域で開催されるが、各理事の皆さんのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 3 協議事項

#### (1) 平成 25 年度全道大会開催地・日程（案）について

○資料 1 「平成 25 年度全道大会開催地・日程（案）8/4」に基づき、来年度の開催地及び開催日について説明する。

・平成 25 年度の全道大会開催地はこれから各地区と調整し最終決定は 12 月理事会となるが、競技委員会では、各地協会の活性化や仲間意識の向上、競技運営に対する再認識にもつながるものと考えており、この案でよろしくお願ひしたい。

<質疑等>

・各種大会参加一覧の新人大会男女平成 23 年度は「滝川協会」となっているが、「深川協会」で開催したので訂正願う。

⇒そのように訂正する。

・来年度のクラブ連盟会長杯の開催地は「留萌協会」となっているが「深川協会」ではないか。

⇒開催地については、現時点で保留とする。

#### (2) その他

○特になし

#### 4 報告事項

##### (1) 北海道バレーボール協会新規約（素案）の概要について

○資料2「北海道バレーボール協会役員定数改定（素案）」及び「北海道バレーボール協会規約に関する項目別改正（素案）」により説明する。

- ・昨年12月に組織検討委員会から答申をいただき、常任理事会としては答申内容を尊重するとともに、これまで当協会の規約制定については上部団体の日本協会の定款を参考としてきていることから、公益財団法人制度改革の動きの中で日本協会をはじめ長野県協会など新しい公益法人の定款を参考とし、評議員会と理事会のありかたについて検討を重ねてきた。
- ・その素案としては、理事会及び評議員会の権限を見直すとともに、評議員・理事・常任理事などの定数を改正しようとするもので、定数では、これまで25地区協会と8加盟団体からそれぞれ評議員33名、理事33名を推薦いただいたが、これを改正し、地区協会及び加盟団体から評議員・理事候補者1名を推薦していただき、約半分ずつ評議員と理事になっていただく。また、常任理事も現行の16名から8名に半減するものです。
- ・この素案に関する意見があれば、今月末までに文書により事務局へ提出いただきたい。
- ・今後の予定としては、12月の理事会に原案を提案し、1月には評議員会を開催し決定していきたい。

※本日いただいたご意見等も参考としながら、理事会及び評議員会の役割、必要な人数、選考方法について執行部でしっかりと検討したうえで案を作成していく。

##### <質問等>

- ・地区・加盟団体から推薦された者1名を選考委員会が理事又は評議員に選考するとのことだがその記載がない。また、理事と評議員を選考するのは大変と思うので、例えば登録チーム数が多い協会からは理事を出すと素案に示すべきではないか。併せて選考委員会の在り方についても記載すべきと思う。  
⇒理事・評議員の割り振り等については答申等も参考に今後詰めていきたい。また、選考委員会の構成メンバーやあり方についても今後検討していきたい。
- ・理事会の権限とする事業計画や予算案の承認に関する記載がその他とは如何なものか。理事会の権限として明記すべきではないか。  
⇒JVA及び長野県の定款を基に規約のたたき台を検討しているが、理事会の権限よりも上位となる財産及び会計に関する章で、事業計画・予算案の承認行為は理事会であるとの条項を明記したいと考えている。
- ・組織検討委員会は現行規約の下で役員定数について検討し答申した。今回の素案は答申を受けて権限も含め考え方を示しているが、規約改正をするのであれば組織検討委員会は違った考え方で答申したはずである。
- ・また、組織検討委員会では、地区及び加盟団体からの評議員・理事の推薦については、チーム数の多い協会や高体連の地区割りなどをもとにコンセプトをもって答申しているが、今回の素案にはその考え方が見えない。選考委員会についても地区基盤を考えたうえで設置を考えている。選考委員会は道協会の役員をすべて決めるように捉えられてもおかしくないように見えるが、選考委員会のメンバーに監事や学識経験者が入っても良いのではないか。
- ・役員定数の改正は、協会運営のスリム化や評議員会の在り方の検討からはじまったものだ。今回の素案は公益法人化したJVAの動きに対応した考え方しかない。また、全国的にも法

人化している協会は1府6県しかない。人数ありきでなくコンセプトが先にくるものと思う。  
⇒素案では、理事・評議員は地区協会及び加盟団体からどれだけとするとの考えは示していない。人数は今後詰めていく予定であり、理事会の方が権限的に重いとすれば理事数を多くすることも考えられる。本素案は答申を踏まえたものということをご理解願いたい。

- ・北海道協会は公益法人ではなく任意の組織だが、JVA等にならってしっかりとした規約にしていこうとする考えは良いが、定数については答申を受けたのだから答申によるべき。また、選考委員会は常設なのか、改選期だけなのか。普通は常設にして監事も入っているのが一般的ではないか。
- ・理事会の権限を厚くするのは良いが、予算と事業計画は評議員会への報告があっても良いのではないか。
- ・平成25年度からの施行を目指しているようだが、全体が納得するものにしていくべきであり、全体的にもんでもらうべきである。以上、感想まで。
- ・JVAや長野県は社団法人や公益法人で法律の趣旨に沿って定款を作っている。北海道はボランティア的にやっておき馴染むのか疑問であり、適宜やっていく考え良いのではないか。スリム化、効率化が目的であったと思うが、定数削減によりどれくらい経費節減になるか試算があれば聞かせてほしい。

⇒手元にないので後日お伝えしたい。

⇒組織検討委員会でも議論した。選ばれた理事の地域によって旅費が違ってくるが、定数が半分になっても今の3割くらい減額になると考え答申した。

※平成23年度決算による理事会等平均旅費や会場費等をもとに、再度、評議員会、理事会、常任理事会別に日数・人数で試算した結果、現行の経費総額は約110万円だが改正案によると約74万円となり、約36万円(33%)減額となる。

- ・評議員会と理事会の開催時期どちらが先になるか疑問である。最初の理事を決めるのは新旧どちらの評議員か。また、会長指名理事6名は、理事会で会長が決まらないと指名できないことになると思うが評議員会の決議なしでも選任できるのか。決議、承認の流れで理事会、評議員会どちらが先になるのか。

⇒任意団体であっても公益法人や社団法人に準じた方法で進めることが良いと思う。評議員を選ぶための評議員会があるようにも聞くので、法律に詳しい人と相談しながら進めていくことが良いと思う。大事なことは、理事会、評議員会は何をすべきか。その上で何人くらい必要なのかを決めていくこと。また、一般的には予算や事業計画は理事会が決めてそれを評議員会に諮問している。

理事会としてどれだけの人が必要なのか。また、評議員会としてどれだけの人が必要なのか基本人数を決めるべきと考える。また、選考方法もしっかりとしたやり方があるので、それらを参考に進めてはどうか。

## (2) 北海道クラブバレーボール連盟との意見交換会結果の概要について

○資料3「北海道協会と北海道クラブ連盟との意見交換の結果(概要版)」により説明する。

- ・3月10日の理事会での結果をもとに、4月28日、意見交換会を開催した。
- ・はじめにクラブ連から現状について報告いただき、次に課題解決に向けた指導者を育成などについて述べていただき、8項目の提案をいただいた。
- ・最終的に結論として、バレーボール人口を減らさないためそのスピードを抑える。また、各

地区協会に一般チームの大会を増やすようお願いするなど、一つずつ問題解決に臨んでいくこととした。

- ・また、バレーボール人口を増やすため常任理事会でも議論しており、今日も旭川市でVプレミア選手とのバレーボール教室を行っているほか、教材化となったソフトバレーの普及や指導者の育成なども進めているところである。理事の皆様から情報をいただき、また、お知恵を拝借しながら進めていきたいと思う。

#### <質問等>

- ・資料 3 で誤解を招く表現があるため補足するが、提案③「大会の審判員は地元審判で行う。」とは地元審判員をなるべく多く使っていただきたいとの考えであり、クラブ連としてはこれまでどおり審判員を派遣してもらい、その上で道級審判員でも良いので経験を積み重ねる場にしてもらいたいとの意味である。

#### (3) その他

##### ①総務委員会から

###### ○MR S チーム・個人登録状況について

- ・7月末現在、チーム登録数は昨年度よりも 27 チームの減、選手も約 1,000 名の減である。

###### ○平成 24 年度東日本大震災義援金について

- ・17 地区協会及び加盟団体から 163,000 円の義援金が寄せられた。道協会は予備費等から 77,000 円支出して総額 240,000 円とし、東北 3 県のバレーボール協会へ 80, 000 円ずつ送金する。

##### ②競技委員会から

###### ○平成 24 年度の大会日程について

- ・資料 1 の No.25 の U14 大会は、10 月 7 日～8 日（札幌市）で開催する。
- ・資料 1 の No.33・34 の地域リーグ兼 6 人制クラブ選手権大会・9 人制クラブ選手権大会は、10 月 13 日～14 日（赤平市）で開催する。
- ・資料 1 の No.41 の第 4 回ヴィンテージ 8' s 交流大会は、平成 25 年度も北海道で開催することが決定しており、10 月 11 日（金）～13 日（日）の日程で帯広協会にて開催される。

###### ○高校選手権大会北海道代表決定戦に関するアンケートの結果について

- ・開催日程では、「高体連が終了したあと 3 年生を 11 月まで引っ張るのは難しい」との意見や「11 月の現行どおり」との回答が多くあった。また、「3 年生を参加させるのであれば 8 月末までに開催すべき」との意見もあったが、このことは難しいものと考えられた。
- ・利用施設では、「合言葉を“きたーえる”とした経過もあり“きたーえる”」、「観戦者の父兄も多いためギャラリーの多い“きたえーると”」との回答が多くあった。また、「初日は札幌市の区の体育館で行い、最終日を“きたえーる”でもよいのでは」との意見もあった。
- ・なお、今回の報告はすべての地区から回答が出ていないため口頭説明とした。

###### ○天皇杯・皇后杯ブロックラウンドについて

- ・9 月 15 日に札幌市で開催するのでよろしく願います。

##### ③指導部から

###### ○平成 24 年度 第 39 回ジュニアキャンプ（一次）について

- ・7 月 4 日から 8 月 26 日までで全ての協会で開催。こうした中で、中学生のバレーボール講習会中に救急車で運ばれたとの新聞記事があった。これはジュニアキャンプ中のことだ

が、具合の悪くなった生徒を監督の先生が見ていたところ、体育館の方が大事を取って救急車を呼び3人を運んだもので、その日は点滴を受けて翌日は元気に参加したとの報告があった。

- ・これを受けて指導部では、各地区指導部長に対しキャンプ中の健康管理には十分注意するよう通知したほか、指導部員にも注意を促す文書を送付した。

## 5 その他

### ●総務委員会から

- ・北海道協会事務局は14日（火）～16日（木）の3日間、夏休みのため不在です。

### ●函館協会から

- ・高体連、高野連、高文連の集まりで、教員の監督・主将会議等への出席に係る保険の取り扱いについて議論されている。高体連は教員の活動に対しすべて保険をかけているが、高体連主催以外の全道大会や地区の大会などは対象外である。道協会や地区協会が単独で保険をかけることは難しいものとするため、道協会として高体連などに話をするなど他競技団体等に確認してほしい。

⇒中体連も同様と考えられことから至急対応したい。

### ●ソフト連盟から

- ・ビーチバレーの道予選会は7月7日に行い北海道男女代表が決定した。また、8月に愛媛県で開催されるマドンナカップ大会に岩見沢緑陵高校の女子生徒2名と教師が初参加することが決定した。
- ・北海道ビーチバレーボールの歩みを作成した。来年度の国体からビーチバレーが公開競技となることが決定し男女代表を選考すること、また、ビーチ連盟から求められていることからソフト連が中心となってビーチ連盟の立ち上げを進めているのでご理解願いたい。

### ●中体連から

- ・8月1日から昨日までの3日間、小樽市で全道中学校大会を行った。その結果を配布したが、男女上位2チームが全国大会に参加するほか、天候杯・皇后杯ブロックラウンドへの参加資格があることを監督に伝えた。

### ●ママさん連盟から

- ・北海道家庭婦人バレーボール連盟は、「北海道ママさんバレーボール連盟」と名称変更した。
- ・10月5日から7日までの間、きたえーとアイスアリーナで全国いそじ大会を開催するが、この大会には50歳以上のママさんチーム、64チーム参加するので応援をよろしく。

### ●釧路協会から

- ・先週、実業団9人制大会を開催し、皆様のご協力により成功裏に終了することができた。お礼を申し上げます。

### ●副会長から

- ・東京都は2020年オリンピック開催に名乗りを上げており、来年9月に最終決定すると聞くが東京開催に対する世論の支持が他の候補地よりも低いようだ。スポーツ関係者や団体の動きも鈍いようである。子供たちにこうした機会を通じてバレーボールに目を向けさせることも大事なこと。日本協会の動きなど中央の情報があれば教えてほしい。

## 6 閉会

## 東日本大震災義援金のご報告

北海道バレーボール協会では、平成 23 年度に引き続き各地区協会や加盟団体の皆様とともに、東日本大震災により被災された岩手・宮城、福島 の 3 県バレーボール協会へ義援金を贈ることを決定し、その結果、15 地区協会及び 2 加盟団体から 163,000 円が寄せられました。

北海道協会として 77,000 円を上乗せし合計額を 240,000 円として、本日、3 県へ 80,000 円ずつお送りさせていただきました。

ご協力いただきました皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

なお、義援金をお送りいただいた団体等名（順不同）は次のとおりです。

地区協会名	小樽協会、根室協会、後志協会、名寄協会、江別協会 釧路協会、深川協会、函館協会、稚内協会、岩見沢協会 美唄協会、千歳協会、札幌協会、日高協会、富良野協会
加盟団体名	北海道ソフト連盟、北海道クラブ連盟、

以上により、平成 24 年度の東日本大震災義援金報告とさせていただきます。

平成 24 年 8 月 10 日

北海道バレーボール協会 会長 近藤 龍夫